

## 2014(平成26)年度NBRPショウジョウバエ運営委員会 議事要旨

日時：2014(平成26)年10月27日(月)15:00~17:15

会場：情報・システム研究機構 東京連絡所会議室

出席者：小嶋(委員長)、井垣、嘉糠、木村、倉永、鈴木、高野、多羽田、松尾、松田、  
和多田、山崎、上田 の各委員

欠席者：明石、上川内、後藤、佐藤、丹羽 の各委員

オブザーバー：伊藤、都丸(工繊大)、佐藤(杏林大)、近藤、矢野(遺伝研)

事務局：NBRP 佐藤事務局長、NBRP 事務局員

国立遺伝学研究所知的財産室長、総務企画課長、研究推進チーム係

### 【議事】

#### 1. 平成26年度の計画と進行状況について

#### 2. 平成27年度の計画について

資料1に基づき、以下の各機関より前年度の報告、今年度の計画と進行状況及び来年度計画について説明があった。

##### 国立遺伝学研究所(上田)

- ・H25年度事業報告(RNAiシステムの収集・維持・提供、バックアップ体制の整備、データベース整備、広報、遺伝子組換えシステムの復元)について
- ・H26年度事業計画(RNAiシステムの収集・維持・提供、バックアップ体制の整備、データベース整備、広報)について
- ・新規RNAiシステムを公開するため、現在データベース構築中である。

また、以下の意見交換が行われた。

- ・保存・維持・提供するにあたり、重要なシステムとそうでないシステムを選別するのはNBRPが必要であるが、コミュニティの意見を反映するコンセンサスが必要である。
- ・凍結保存について、カイコリソースでは卵巣凍結実験を成功させているため、その手順を用いて研究中であり今年度中には結果につなげたい。

##### 京都工芸繊維大学(高野)

- ・H25年度最終報告(システムの収集・維持・提供、Fly Board会議参加)について
- ・H26年度上半期の報告(システムの収集・維持・提供、データベースの充実、リソースの品質管理、リソースの品質向上、情報公開・広報活動)について
- ・収集に関しては、遺伝子発現ドライバーを充実、論文から新奇作出システムをリストアップ・システム譲渡の働きかけ、新たなシステム開発促進、異種ゲノム断片を組み込んだショウジョウバエシステムの収集を行った。
- ・MTAについて大学内の整備も整ったため、早急に利用できるように進めている。併せて情報公開についても整備をしていきたい。
- ・H26年度下半期の事業計画(システムの収集・維持・提供、データベースの充実、リソースの品質管理、リソースの品質向上、情報公開・広報活動)について
- ・Japan Stock Gatheringについて、論文から新奇作出システムをリストアップし、作者へシステム譲渡の働きかけを行っていきたい。

また、以下の意見交換が行われた。

- ・リソースのアピール活動を行うためには、一般向けに発信するようなデータベースを考えて行かなくてはならない。またいつでも発信できるような材料を集めておくことがいいのではないか。

##### 愛媛大学(和多田)

- ・H25年度事業報告(収集・維持・提供、ホームページ作成)について
- ・Drosophila Conferenceにおいて、4機関を代表しポスター発表を行った。
- ・ホームページは、種名と写真が同時に閲覧できるようにした。また画像データベースをさらに向上させ、画面を大きくし記載文献へリンク出来るよう改良した。

- ・ H26 年度事業計画（野生系統の収集・維持）について
- ・ 石鎚山（愛媛県）で 3 種 12 系統の採取を行い、11 月末にも小笠原へ採取する予定のため、収集目標は達成予定である。
- ・ 提供数目標達成のため、学会、研究会、ワークショップ等に参加し、積極的な広報活動により維持系統の利用促進を図る。

また、以下の意見交換が行われた。

- ・ 現在、日本のハエで飼育できるものはほぼ収集しているため、新規で種類を増やす場合は、植物防疫所に許可を得なければならない。
- ・ 来年度、植物防疫所に何十種類か申請する予定であるので、希望の種類があれば申請の準備をする。
- ・ 名古屋議定書について、1993 年以降のものは、収集した国の法律を確認し対応していただきたい。
- ・ 植物防疫所で許可がおりなかった系統に関して見直しが可能であるが、少しでも生態系に影響する可能性があるため許可が下りないので、研究の重要性や生態系に影響がないことを農水省に説明できるような体制を構築しなければいけない。

#### 杏林大学（松田）

- ・ H26 年度事業計画（近縁種突然変異系統の収集・管理・提供、系統維持のバックアップ体制、近交系統及びバランサー染色体の作成、近縁種のデータベースの充実化）について
- ・ 収集に関して、退職者など研究室を閉鎖する研究者から系統の提供依頼があったため受けた。また、ハイブリットに関するミュータントを含めて 144 系統定着しているが、今年度中に新たに公開する予定である。
- ・ *D. ananassae* 2<sup>nd</sup> chromosome のバランサー系統の有効性を調査中である。
- ・ データベースの充実化を図り、ネット上で MTA 手続きができるようにした。

### 3. Jfly のサポートについて

- ・ 上田委員より、NBRP ショウジョウバエで Jfly をサポートすることについて、Jfly がハエコミュニティに対していろいろなサービスを提供しているため、コミュニティの窓口となる責任ある管理者を年度内に決定したいとの発言があった。また、個人情報となる住所録が更新されていないため、各自で入力していくシステムを組み込んでもらうことを確認した。

### 4. その他

#### ① NBRP 中間評価報告について

- ・ 上田委員より、NBRP 中間評価報告について、本事業で得られた成果は総体的に優れた水準に達しているとの評価をいただいたと報告があった。
- ・ 今後の展望について、なくてはならないライフサイエンス基盤としての整備が見込まれ、研究者のニーズを先取りするリソース構築を検討しなければならないとの説明があった。

#### ② 日本医療研究開発機構について

- ・ 上田委員より、日本医療研究開発機構の概要について説明があった。
- また、以下の意見交換が行われた。
- ・ NBRP 事業移管後について、このプロジェクトを継続するための対策として、医療情報等を収集しどれだけ寄与できるか説明できるように準備をすすめたほうがいいのか。
  - ・ ショウジョウバエだけがアピールできても、NBRP 全体の存続には多少の寄与しかできないので、NBRP 全体で考えていかないといけないのではないか。
  - ・ Disease Ontology は総ての生物種が横並びであり、疾病と関連づけていけば、NBRP のアピールとなり得るのではないか。

以上